

傲慢と善良



取得した資格：技術士（建設部門：道路）
資格取得年度：令和4年度

みやざき ゆうすけ*
宮崎 雄祐*

受験の動機・経緯

受験をしようと思った動機は、技術力の向上です。業務経験として、土木分野における道路事業を担当しつつも広報活動や職員採用のような幅広い業務を行ってきたこともあり、本省道路局へ異動となった際に、自身の知識不足を痛感したことが受験のきっかけです。受験するからには、時間と労力を無駄にしたいとの思いから取り組んだ結果、自分だけの力とは到底言えませんが、初めての受験で合格することができました。

今回は、自分なりに受験してみて大切に感じたことを紹介させていただきます。これから受験を考えている方には理解しにくい内容もあるかもしれませんが、少しでも皆さまの受験に役立つ情報になればと思います。

受験してみて大切だと感じたこと

受験をしてみて、大切だと感じたことを4点ほど紹介します。

1) 技術士に求められるコンピテンシーの理解

技術士を受験しようと思ったことがない方はご存じないかもしれませんが、まずは技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）を正しく理解することが大切です。資質能力には、8項目（専門的学識、問題解決、マネジメント、評価、コミュニケーション、リーダーシップ、技術者倫理、継続研鑽）があります。なぜこの理解が大切かというと、第二次試験の筆記試験、口頭試験で、どの設問でどの資

質能力を確認するか決まっているからです。自分自身も試験の際に、設問ごとに資質能力を完璧に意識して解答していたかどうか自信はありませんが、資質能力をしっかりと理解して、それを意識しながら解答することが大切です。

2) 問題文は、丁寧に確認・理解

当たり前かもしれませんが、問題文と設問文を丁寧に確認し、理解することです。問題文にはヒントが隠されているだけではなく、出題者の意図があります。そのため、何を問われているのか正確に把握する必要があります。また、設問文については、過去問を解いていると設問構成や内容が似ていることが多いため、先入観で解答してしまう可能性があります。そのため、しっかり確認してから解答することが重要です。

3) 過去と同じ問題は出題されない

技術士試験（二次試験）の筆記試験は、過去問からは出題されません。過去問を解けるようになるだけでは試験対策として不十分です。そのため、予想問題を作成し、最近の情勢を踏まえながら、解答できるようにすることが重要です。

私は予想問題を作成する際に、国土交通省で開催されている部会や新しいガイドラインなどを参考にしていました。また、過去問を用いて近年の出題傾向を分析することも行いました。

4) 勉強においては、アウトプットを最重視

どれほどの知識があっても、試験の際にアウトプットできないと全く意味がありません。私は筆記

*国土交通省 関東地方整備局 東京国道事務所 計画課 企画係長

試験でアウトプットするための事前準備として、シャープペンシルの精査と文章構成の事前立案を行いました。

シャープペンシルの精査についてですが、筆記試験では、1日で600文字原稿用紙9枚記載する必要があるため、書きやすく疲れにくいものを探しました。普段から手書きをする機会が少なかったため、実際に書いてみると漢字がすぐに書けないことが多々あり、手書きの練習をしておくことも大切であると思いました。

続いて、筆記試験の文章構成の事前立案です。試験の前から、各設問に対して、論文の記載構成を決めていました。具体的には、以下に示すような形です。

問Ⅰ 原稿用紙 (3枚=75行) - (見出し4行) = 71行

番号	解答項目	行数	内訳
(1)	〇〇するための課題	24行	1課題8行×3
(2)	私が最も重要と考える課題と解決策	27行	理由3行 1課題8行×3
(3)	解決策に共通して新たに生じるリスクと対策		
(3)-1	新たに生じるリスク	5行	
(3)-2	上記のリスク	5行	
(4)	業務遂行に当たり必要となる要件・留意点	10行	技術者倫理5行 持続可能性5行

こうすることで、試験中に設問ごとの記載過多、不足を一瞬で判断でき、文章のバランスを調整できるように工夫しました。

筆記試験における対策

筆記試験は、相当な勉強時間が必要になります。そのため、自分に適した勉強方法を確立することが大切です。自分は、「論文を作成して音声で聞く」、「A評価論文を読み込む」、「A評価論文を模写する」、「技術士の方に添削してもらう」など様々な勉強方法を試しました。遠回りも多くありましたが、「技術士の方に添削してもらう」ことが最も効果的であったと思います。ぜひ、いろいろな方法を試して頂き、自分なりに解答をアウトプットできるようになる勉強方法を見つけて頂ければと思います。

口頭試験における対策

口頭試験の対策として、過去の質問例を参考にし、

自分なりの解答例を作成し、様々な方と面接の練習を行いました。基本的には出願時に提出した実務経験証明書に記載した内容について、業務遂行上の工夫（コミュニケーション、リーダーシップ、マネジメントの3つ）を簡潔明瞭に説明できるようにする必要があります。大切なことは、技術力の高さではなく業務遂行能力の高さをアピールすることです。また、試験時間が短いので、長い説明にならないようにすることも大切です。自分が受験したときにはコロナ禍であったため、面接官との間にパーテーションがあり、お互いにマスクもしていたため質問が聞き取りづらい状況でした。面接練習に付き合っていたいただいた技術士の方々からは、「質問の意味がよくわからなかったら、しっかり聞き返すようにしなさい」と強く言われましたが、試験当日はあまり聞き返すことができなかったことは反省点です。ぜひ、質問の意味が理解できるまで聞き返した方がよいと思います。口頭試験の対策を通じて感じたことは、自分自身の業務を普段から振り返ることがなかったので、これから受験を検討される方はご自身の経験をまとめておくとうよいと思います。

おわりに

技術士第二次試験は、4月の出願から3月の最終合格発表まで約1年にわたる長期戦です。この間、いかにしてモチベーションを維持するかが重要であると思います。

先日、「傲慢と善良」という映画を観たのですが、その題名にある通り、技術士試験では「自分こそが技術士にふさわしいという傲慢さ」と「自分は技術士が備えるべき資質能力（コンピテンシー）を持ち合わせていますという善良さ」が必要であると思いました。一見矛盾しているのですが、矛盾なく両方をもっていることをアピールすることが技術士試験では必要不可欠であると思います。

最後になりますが、努力の方向を間違えずに勉強すれば、必ず合格できると思いますので、ぜひ諦めずに挑戦して頂きたいと思います。

【著者紹介】 宮崎 雄祐 (みやざき ゆうすけ)

平成27年首都大学東京（現：東京都立大学）都市環境学部都市環境学科都市基盤環境コース卒業。国土交通省関東地方整備局相武国道事務所計画課、宇都宮国道事務所管理第二課、企画部企画課、道路局国道・技術課を経て現職。令和5年3月技術士（建設部門）取得。